

## Special Essay

### 草を喰っている場合じゃない（留学のすすめ）

医療センター臨床検査室

山口 倫

世の中便利になった。私はかなりのアナログ人間であるが、インターネットから欲しい論文は殆ど手に入り、医療センターで出力できない論文も図書館に頼めば、コピーを院内便で送って頂けるようになった。医療センターに出向して8年になるが、有り難いことにこうして旭町の先生方と同様に遜色なく論文を手に入れることができる。院生の頃は、図書館で論文を見つけることができなければ途中で諦め、referenceに載せることなく探し当てた論文のみで考察していた。他人が知らないような文献を図書館で見つけたときは、「やった！」とお宝を発見したような気分になっていた。

最近日本人の留学希望が少なくなっていると聞く。ネットが発達していない以前は図書館などから得られる情報によって海外生活（留学）の憧れを抱いたものだが、昨今では現実を瞬時に知ることができる情報社会であり、隣の芝生は青く見えないのだろう。

さて、このような時代に関係するのかもしれないのか、草食系男子なる言葉を耳にするようになった。ひ弱と言えば語弊があるかもしれないが、女子からそんな男子がもてはやされる時代らしい。しかしちょっと待て、東北の大震災もあった。男尊女卑のように振る舞う必要はないが、我々は日本男児であることを忘れてはいまいか。総括では学生に「将来の夢は何ですか？」と聞いているのだが、女学生が「留学したい」とか、色んな夢を語るのに対し、男子学生が「幸せな家庭を持ちたい」とか、「夢は特にありません」とか言ったりする。冗談で言っているのかなと思うが、真顔である。まあ、前提として幸せな家庭は良いとしても、一度きりの人生それでいいのか？と尋ねたくもなる。実際仕事の

内容に関しては日本でも努力すれば海外と同様、またはそれ以上のことを成す

ことも可能となったのは事実だ。だが、留学して得るものは大きい。外から日本を眺めて初めて感じる日本や、自分を見つめ直し精神を鍛え直すのに良い機会だ。是非海外に出る機会を得て欲しい。幸いにも病理はいくつもの海外へ留学する道やコネもある。留学先を自分で探すのも良いが、きっかけをつかみたい（自分がそうであったように）人にはおすすめの講座だ。大学院生でもチャンスがある（最後は講座の宣伝にもなりましたが）。

学生や院生は今思えば比較的時間がある。是非、色んな本や論文を読む場として図書館を利用し、夢を抱き実現して頂きたい。そして祖国を思い、誇りを持つ、日本男児（撫子）としてこれからの日本を支えて頂きたい。草を喰っている場合じゃない。

